



日本植物病理学会ニュース 第50号

(2010年5月)

【本学会活動状況】

1. 技術士対応委員会

平成21年度技術士第二次試験（農業部門・植物保護）で14名が合格

平成22年3月5日に平成21年度技術士第二次試験（農業部門・植物保護）の合格者が発表され、次の14名の方が合格されました（敬称略）。

栢森美如（北海道釧路農業改良普及センター；本会会員）、池田 信（北海道網走農業改良普及センター；本会会員）、奥澤（武澤）友二（北海道立中央農業試験場；北日本病害虫研究会会員）、東岱孝司（北海道立上川農業試験場；本会会員）、渡邊 健（茨城県農業総合センター農業研究所；本会会員）、舟久保太一（山梨県総合農業技術センター；本会会員）、三宅泰司（株式会社クレハ総合研究所；本会会員・日本農薬学会会員）、市川 健（静岡県産業部農山村共生課；本会会員・日本農薬学会会員）、丸山 威（住化テクノサービス株式会社；日本応用動物昆虫学会会員）、江藤博之（長崎県病害虫防除所；九州病害虫研究会会員）、江口直樹（長野県農業試験場；本会会員）、堀 武志（新潟県農林水産部経営普及課；本会会員）、青木由美（富山県高岡農林振興センター；日本応用動物昆虫学会会員）、松尾一穂（全国農業協同組合連合会；日本農薬学会会員）。

日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会、日本農薬学会、日本雑草学会、植物化学調節学会は、技術士（農業部門・植物保護）の社会での活躍について、積極的に取り組んでいます。当面の目標は100名の技術士（農業部門・植物保護）の誕生です。平成16～21年度の第二次試験の合格者は、その都度、紹介してきましたが、平成22年3月現在、合計で33名になりました。それらの方々のお名前を改めて下に掲載します（敬称略）。

市橋秀幸、橋本良子、片岡光信、松浦昌平、中保一浩、黒木修一、平瀬寒月、野仲信行、市川和規、井手洋一、森充隆、濱本 宏、田中敏章、國友義博、白石俊昌、小谷野伸二、星 秀男、新山徳光、伊澤宏毅、栢森美如、池田 信、

奥澤（武澤）友二、東岱孝司、渡邊 健、舟久保太一、三宅泰司、市川 健、丸山 威、江藤博之、江口直樹、堀武志、青木由美、松尾一穂。

なお、毎年の第一次試験の合格者のうち、植物保護関係者が何人であるか正確には分かりませんが、合格者数は年ごとに確実に増えており、平成21年度だけでも40名以上の方が合格されたものと推定されます。

平成22年度の技術士第一次試験は平成22年10月11日（月）に、また、技術士第二次試験は平成22年8月8日（日）に行われます。詳細は日本技術士会のホームページをご覧ください。多くの会員の皆様が奮って挑戦されるようお願いいたします。

【今後の学会活動予定】

1. 平成22年度部会開催予定

(1) 北海道部会

日時：平成22年10月14日・15日

場所：未定

(2) 東北部会

日時：平成22年10月4日・5日

場所：コラッセふくしま（福島市）

(3) 関東部会

日時：平成22年9月16日・17日

場所：文部科学省研究交流センター（つくば市）

(4) 関西部会

日時：平成22年9月30日・10月1日

場所：AOSSA（福井市）

(5) 九州部会

日時：平成22年11月9日・10日

場所：ニューウェルシティ 宮崎（宮崎市）

2. 平成22年度植物感染生理談話会開催予定

日時：平成22年8月18日（水）～8月20日（金）

場所：国民宿舎虹ノ松原ホテル

佐賀県唐津市東唐津4丁目虹の松原

問い合わせ先：草場基章 E-mail: mkusaba@cc.saga-u.ac.jp
 詳細：第 76 巻第 1 号の巻頭綴じ込みをご覧ください。

3. 第 25 回土壌伝染病談話会開催予定

日時：平成 22 年 9 月 16 日・17 日
 場所：新梅田研修センター（大阪市）
 詳細：本号の巻頭綴じ込みをご覧ください。

4. 第 4 回植物病害診断研究会開催予定

日時：平成 22 年 9 月 15 日
 場所：文部科学省研究交流センター（つくば市）
 詳細：本号の巻頭綴じ込みをご覧ください。

【新病名等申請のお願い】

日本植物病理学会では、日本植物病理学会報および Journal of General Plant Pathology を初めとする各種学会報告から、わが国の植物で発生する病害名を収集し、植物病名目録として収録しています。最新の印刷物は 2000 年に発行された「日本植物病名目録」ですが、これ以降発表された病害についても、病名委員の拾い出しにより病名等の収集を行っており、拾い出した病名等について病名委員による掲載内容等の審査を経た後に、「日本植物病名目録追録」として Web で随時掲載しています。しかし、委員による拾い出しには限界があるため、他学会等で論文化した病名を掲載して欲しい、あるいはできるだけ早く病名を掲載して欲しいなどのご希望がある場合は、「新病名命名等申請書」の提出をお願いします。特に病理学会以外の学会に発表された方は必ず申請書をご提出ください。提出先は以下の通りです。

提出先：〒 329-2793 栃木県那須塩原市千本松 768

畜産草地研究所

月星隆雄（病名委員長）

E-mail: tuki@affrc.go.jp

「新病名命名等申請書」：本号に添付の申請書（コピー可）もしくは日本植物病理学会ホームページ <http://www.ppsj.org/mokuroku-byoumeishinsei.html> よりダウンロードしてご使用ください。

なお、申請はメールまたは郵送（2 部）で、日本植物病理学会報および JGPP 誌の場合は根拠文献の添付は不要ですが、他学会・研究会誌の場合は必ず 2 部郵送してください。なお、病名命名等の規則については、本号の新病名等命名基準をご参照ください。

日本植物病理学会 病名委員会

【受賞のお知らせ】

東京大学・難波成任教授が、国際マイコプラズマ学会（The International Organization for Mycoplasmaology）から 2010 年のマイコプラズマ学の国際賞エミー・クラインバーガー・ノーベル賞（Emmy Klieneberger-Nobel Award）を授与されることが決定いたしました。

受賞の対象：ファイトプラズマの研究において、傑出した革新的な研究を行い、高い業績を挙げた。植物マイコプラズマをファイトプラズマと命名し、分類体系を確立した後、世界に先駆け全ゲノム解読に成功しファイトプラズマの分子生物学の端緒を開いた。この研究により、必要な物質の大半を宿主に依存し、細胞外から取り込むファイトプラズマのユニークな生存戦略が明らかになった。また、膜表面に存在するタンパク質に着目した研究によって、昆虫によりファイトプラズマが媒介される分子機構を解明した。さらに、植物に病気を引き起こす原因タンパク質が 38 アミノ酸からなる低分子ペプチドであることを明らかにし、「TENUGU」と命名した。難波らの研究グループの一連の成果は、ファイトプラズマ病の治療・予防につながるものであり、ファイトプラズマ学研究分野の確立と発展に大きく貢献した。（桑田 茂）

【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せいただきたくお願いします。

投稿宛先：〒 170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会 FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

加来久敏, 桑田 茂, 畔上耕兒, 植草秀敏, 佐藤 衛 各委員宛

編集後記

学会ニュース第50号をお送りします。今回はコンパクトな内容となりましたが、おめでたいトピックが並びます。

最初は技術士第二次試験に14名の方が合格されました。これまでの合格者を加えますと計33名、目標のおよそ1/3に達しました。これで合格者が一気に増えそうな状況となり、稲葉委員長はじめ技術士対応委員会のお骨折りに感謝したいと思います。次に東京大学・難波先生の国際マイコプラズマ学会のエミー・クラインバーガー・ノーベル賞受賞です。ファイトプラズマのゲノム解析などの大きな業績が世界的な評価を得て、当学会としても大きな名誉です。

続いて植物感染生理談話会はじめ談話会や部会開催など学会活動の案内が並びますが、本年度も4月京都での大会開催に続き、本格的な学会活動が展開されます。皆さんに奮ってご参加いただきますようお願い申し上げます。

(加来久敏)
